

委員会レポート

先進地ではどのような事業が 取り組まれているのか？

視察研修報告

総務建設産業

11月10日～12日に山梨県にある4施設の視察研修を行いました。

ごみで発電

まずは、山梨県富士吉田市の「環境美化センター」で、ごみ処理についての視察です。
ここでは、可燃物を焼却するときの熱を利用して発電し、施設の電力に当てています。
またその灰をプラズマ



山梨県下吉田東小学校「屋上」

で溶解し、砂状になった製品のリサイクルを考えられています。
商品化されると、最終処分がなくなるそうです。年々進化する設備に驚かされます。
私たちのクリーンパークわかすぎの耐用年数も迫っています。

エコスクール

その後「下吉田東小学校」の太陽光発電を見に行きました。

屋上に設置された120枚のパネルで、最大20kwの電気を作り、施設使用料の約20%をまかなっています。
国や県の補助をもらっても、700万円ほどの町予算がかかります。
しかし、製品コストが下がれば、要検討です。

地球に優しいエネルギー

2日目は「山梨クリーンエネルギーセンター」でクリーンエネルギーについての視察です。
ここは、18箇所の水力で発電した約12万kwの電気を電力会社に販売しています。

それを集中管理している施設です。
また、太陽光発電の設備にも取り組み、CO₂削減が前向きに進んでいます。
当町でも、風力発電等の話はありましたが、これからはクリーンでコストの安いエネルギーに目を



山梨クリーンエネルギーセンター

公営バスで

3日目は、「山梨県笛吹市八代支所」で、公営バスについての視察です。
220平方キロメートルの市内を、10路線の市営・民間のバスが走っています。
須恵町の対象面積は、16・33平方キロメートルの約40%に当たる約67平方キロメートルと、規模は違いますが、コミ

ユニティバスを検討中の当町にとっては、試験運行路線の廃止等のデメリット等も説明いただき貴重な研修となりました。
十分に検討を重ねて、極力、ロスの無い運営を目指したいと思います。
早く、視察研修を受け入れていただいた方々に感謝申し上げます。

報告者 合屋 伸好

文教厚生

特定健診 受診率アップへ

近年、国内では生活習慣病が増え続け、その割合は死因の3分の2、医療費の3分の1を占めています。
こうした生活習慣病を予防し、健康で過ごしていくため平成20年4月から40歳から74歳の方を対象に「特定健診・特定保



高山市役所にて研修中の文教厚生委員

健指導」がスタートしました。
ちなみに須恵町の受診率は23%、そこで全国でも受診率が高い岐阜県高山市に視察研修に行きました。

高山市では、広報での啓発や地域をまわって年間122回の健診を行い、受診率が50・1%と向上しています。
保健指導の効果が上がり糖尿病患者予備軍が、

平成17年と平成20年とを比較すると全国では増加しているにもかかわらず高山市では減少しています。
1人あたりの年間医療費を比べてみると高山市25万3638円、須恵町96万3553円と4倍近い差があります。

この視察研修で学んだことを活かし、須恵町でも健診受診率向上につなげていきたいと思えます。

草・木・牛フン 一石二鳥

須恵町では、草木・剪定枝・竹・伐根などには有料で県外の資源化施設へ運んでいます。
また、現在ある牛フンを堆肥化している堆肥センターの老朽化に伴い、畜産系有機廃棄物と、草木・剪定枝・竹・伐根類および処理汚泥等を合わせて堆肥化を行う施設を地域活性化経済危機



あおい 葵堆肥センター（愛知県岡崎市）

対策臨時交付金を利用して建設することを計画しています。
そこで、愛知県岡崎市にある葵堆肥センターを視察し、生産方法や販売戦略についてのアドバイスを受けてきました。
◆家庭園芸用として小袋販売

◆値段を高くして質の良い商品
・サラサラ感がある
・軽い
・水分が少ない
・臭いが少ない

◆付加価値の高い商品

・バームキュライト（白い粒）を加える
・ピートモスを加える
・培養土として販売する（堆肥＋土）
・腐葉土として販売する（葉っぱを加える）
・サンプル商品を配る等の宣伝

以上のことを参考に、須恵町にあった堆肥作りを研究し、販売についても視察で学んだことを活かしていきたいと思えます。

報告者 今村 桂子